

破天荒

教宣部

4974号

2014年

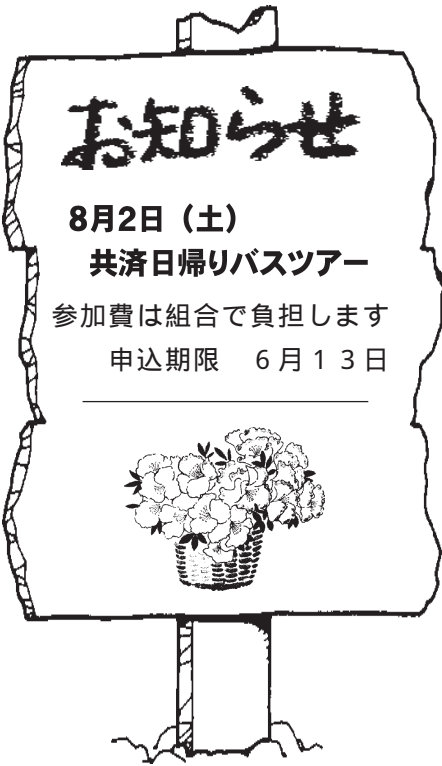
5月28日

化学一般京滋地本
全竹中労働組合



予告 夏季一時金

要求提出日6月5日 回答指定日6月16日



2014春闘では、中堅中小企業においてもベースアップに努力する経営者が多くおられたようでしたが、竹中においてはその努力を全く感じられない交渉と結果でした。さて次は夏季一時金です。

春闘も業績

「業績が良くななくても世間がベースアップの流れであれば、竹中としても検討せざるを得ない」という団交での会社発言がキャンセルされ、世間がどうであれ消費税が上がるうとも「竹中グループ各社が黒字を複数年維持できる状況でない」と、ベースアップは検討できないう発言になりました。

経営者が相談役から会長

に交代したので考え方も変わったとのこと。

一時金も業績

一時金は年2回、私たちの生活にとって重要なものです。組合は一時金の安定と向上を目標とし、業績に

モチベーションの維持

今年の春闘は、景気回復ムード作り、消費税増税で従業員の生活を考える立場から、大企業を中心にベースアップを回答する情勢となりました。

中小企業においても、消費税増税の影響で半年先の業績見通しは厳しいと考える経営者が、従業員の生活を思い、モチベーションを上げたいと努力した姿をN

HKで観て、暖かい気持ちになりました。化学一般京滋福地本でも7支部がベースアップを獲得しました。化学関連企業は原油高の影響が大きく厳しい状況の会社が多い中で、200〜800円という金額ですが、経営者の努力があった結果だと思えます。

さて竹中では、システム赤字が大きな原因で、検

よって左右されない、安心した生活設計ができるものを求めています。

しかし現実には、一時金対象期間における一人当たりの経常利益という業績の数字で決められています。業績スライドによる決定を要請する非組合員の声も大きかったです。私としては理解に苦しみました。

業績の出身

決算の数字が100%、

会社の状態を示しているのかと言え、それは違います。計数化できない部分の方が多いいのではないのでしょうか。数字で表せない部分として、社風・人材・技術力・設備・業界(広くは経済動向)などです。

春闘交渉の中で会社は、売上げが減少でも利益を出せるよう体質改善を進めると発言しています。一時金は経常利益という一つの数字で決まるもので、利益さえ出れば安心できるのですが、体質改善での将来へ不安があります。計算化できない部分が体質改善に含まれているからです。例えばチームワーク、ムード、空



気、人間関係、気配り、創造性、説得力、やる気、改善意欲、教育訓練、伝統、経営哲学、愛社心、もつといっぱいあると思います。

先日、京北のNさん宅でガーデンバーベキユウをご馳走になりました(今年で3年目)。

天気は良く暑すぎず心地良い。私たち5名が来る前に焼きベーコンを準備して下さり、ビール乾杯!。後は鮎の塩焼き、薪ストーブのコンロでじっくり焼いたスベアリブには舌鼓。

ゆったりとした風景を前に料理をつまみお酒を飲んでワイワイ言いながら過ごす贅沢な時間(10AM〜4PM)が知らない間に過ぎていきました。

帰りのタクシーが来てみんな大慌て「また来年ね...」とみんなの笑顔が何よりでした。

